

## 第5章 評価



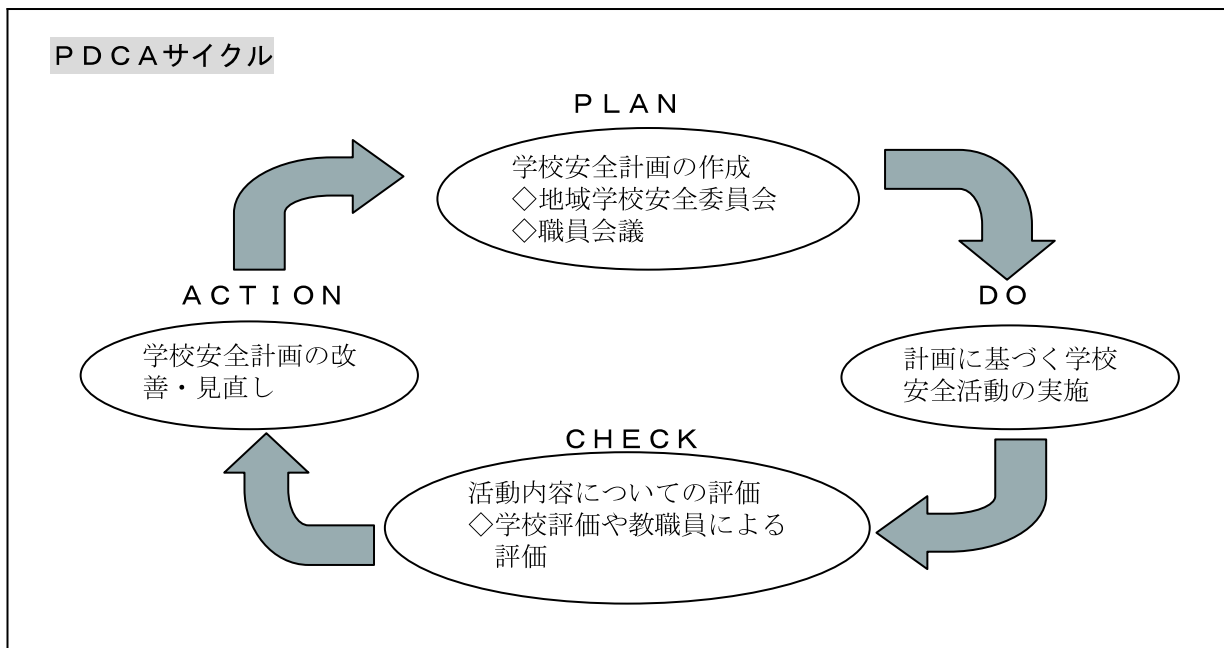
防犯教室（気仙沼市立小泉小学校）



## I 学校安全計画の評価・見直し

児童生徒等の安全を守るための取組が適切に行われるようにするためには、「学校安全計画」に定められている内容や手段、学校内の取組体制が適切であったか、地域との連携が適切に進められていたかなど取組状況について定期的に振り返り、点検し、次の対策につなげていくことが必要である。計画（PLAN）－実施（DO）－評価（CHECK）－改善（ACTION）のサイクルの中で、定期的に計画の内容や取組を評価し、見直しを行い、効果的な学校安全活動を充実させていくことが求められる。

さらに、保護者や関係機関・関係団体等と連携協力を図っていくことが重要であることから、「学校安全計画」の内容について保護者等の関係者に周知することが望ましい。



## II 安全教育の評価

### 1 安全教育の評価の意義

#### (1) 安全教育の評価

安全教育において評価を行うことは、一人一人の児童生徒等が安全教育の目標をどの程度達成したかを知るとともに、教育内容や方法における問題点を明らかにし、より良い教育内容・方法を作り上げていく上で非常に重要である。

安全教育の評価においては、ややもすると事故の発生件数のみによって、その成果を測定しがちである。しかし、事故は危険な状況や行動の一部が結果として表れたものである。児童生徒等は、安全教育を通じて安全に関する望ましい力と心を身に付け、その結果として事件・事故災害の発生が防止できる。従って、安全教育の評価においては、多様な側面から評価を行うことが可能であり、また、そのことは大変重要である。特に、事故発生の主要因である行動と、それに係る諸要因について調べ、評価することは、安全教育の評価の基礎といえる。例えば、安全に関する知識、態度等は、安全教育を評価する上で重要かつ基本的な内容である。また、安全行動の実施状況を調べることも、直接事故防止につながるため、貴重な情報を得ることができる。これらは、現在の生活における安全行動を反映するとともに、将来の生活においても重要な意味をもつ。そして評価によって得られた情報は、今後の安全教育を改善する上で貴重な資料となる。

## (2) 安全教育指導計画の評価

安全教育の指導計画に盛り込まれたことが、適切に実施されたかどうかを評価することも不可欠である。内容や方法が適切であったか、指導体制が確立していたか、日程や日時に問題がなかったか、安全教育に関する活動の連携が取れていたかなどは、安全教育の評価項目として重要である。これらの項目に問題があった場合には、計画に改善を加えて実施し、更なる評価を行うことが必要である。

### 2 安全教育の主な評価項目

安全教育の評価項目は、教職員や児童生徒等だけではなく、保護者への質問などから得られた情報も貴重である。

#### 評価票の例

【安全教育の目標】 災害安全教育・交通安全教育・生活安全教育それぞれで行う。	チェック
<b>安全教育のチェックポイント</b>	
・日常生活における事件・事故災害の現状，原因及び防止について理解できたか。	
・現在及び将来に直面する三領域の安全上の課題に対して，的確な思考・判断に基づく意思決定や行動選択ができるようになったか。	
・日常生活の中に潜む様々な危険を予測し，自主的に安全な行動をとるとともに，自ら危険な環境を改善できるようになったか。	
・自他の生命を尊重し，安全な社会づくりの重要性を認識して，学校，家庭及び地域社会の安全に進んで参加・協力できるようになったか。	
<b>安全教育指導計画のチェックポイント</b>	
・全校的な指導体制が確立されているか。	
・教職員間の連携が取れているか。	
・日程や時間，実施回数は適切であるか。	
・安全管理と連携が取れているか。	
・児童生徒等の実態，地域の特性を反映しているか。	
・指導の内容や方法に問題はないか。	
・指導に必要な教材・教具，資料等が整備されているか。	
・保護者や地域諸機関の協力や理解が得られているか。	



高校生を対象にした二輪車講習会

## Ⅲ 安全管理の評価

### 1 安全管理の評価の意義

安全管理は、現在有効に機能しているように見えても、状況の変化等により潜在的な危険をはらみ、十分でない場合がある。

将来、安全管理の対象や項目が変わったり、安全上の新たな問題が生じたりすることにより、現在の方法を改善する必要がある場合がある。また、人事異動等により、教職員の安全管理に関する共通理解が低下することも考えられるため、安全管理に関する評価が必要となる。安全管理の評価の意義については、以下のとおりである。

- ① 安全管理の実態を把握する。
- ② 安全管理の対象、観点・方法が安全管理のねらいに合致しているか否かを検討する。
- ③ より有効な安全管理のための改善策を明らかにする。
- ④ 評価結果は教職員全員にフィードバックする。
- ⑤ 必要に応じて、保護者、地域関係者及び児童生徒等にフィードバックする。

以上の意義を基に、その後の指導や管理に生かすことは、安全管理へのより積極的な参画や、安全管理についての改善策の提案を促すことになるので、積極的に行うべきである。特に、施設・設備の活用状況や安全点検等についての評価は、具体的なチェックカードなどを作成し速やかに対応することが重要である。また、様々な条件下での訓練を保護者や地域関係者等との連携を図りながら実施し、その結果を踏まえ、安全管理について改善していくことも大切である。

### 2 安全管理の主な評価項目

評価の観点は、児童生徒等の生命や身体の安全を確保し、安心して生活できるようにするという立場から、できるだけ具体的にしておくことが必要である。次に、一般的な観点を示すが、それらを、学校や地域の実情に合わせて、より具体的で、より適切なものに工夫して設定することが望まれる。

なお、安全管理の総合的な評価としては、事故や災害の発生率や発生内容等も指標となる。



## 評価票の例

【安全管理の目標】 災害安全教育・交通安全教育・生活安全教育それぞれで行う。	チェック
<b>学校環境の安全管理のチェックポイント</b>	
・学校環境の安全管理に関する計画は適切であったか。	
・安全管理に関する実施要領、マニュアル等は適切に機能するように作成されていたか。	
・計画されたことが実行され、明確に記録されたか。	
・点検項目は適切であったか。	
・安全点検は計画的に実施され、必要な改善措置がなされたか。	
・全教職員の共通理解の下に実施されたか。	
・事件・事故災害の情報収集、連絡体制は整えられていたか。	
<b>学校生活の安全管理のチェックポイント</b>	
・児童生徒等の安全にかかわる行動に実態や事故発生状況が把握され、それらが安全管理や安全指導に役立てられているか。	
・様々な教育活動の内容や方法で安全を確保するためのきまりや約束を児童生徒等が理解し、守り、安全に活動しているか。	
・教科等における安全のきまりや約束等が明確にされ、教職員が安全に留意して授業を行っているか。	
・児童生徒等と日常的なかかわり、安全に関連する指導、環境整備、相談活動体制の整備を適切に行っているか。	
・学校生活の安全管理が安全指導と関連付けられているか。	
<b>不審者侵入防止に関する安全管理のチェックポイント</b>	
・施設・設備の防犯対策は十分に行われたか。	
・防犯システムの点検は計画的に実施されたか。	
・学校施設の開放等は PTA 等の協力により必要な対策がとられたか。	
・日常の安全確保のための対策は講じられていたか。	
・関係諸機関との連携は十分図られていたか。	
<b>登下校の安全管理のチェックポイント</b>	
・通学路の設定と安全確保のための点検・整備が図られているか。	
・交通手段の違いによる安全確保が図られているか。	
・利用される交通機関及び地域事情に応じた安全確保はできているか。	
・犯罪被害防止のための安全確保はできているか。	
・地域ぐるみで児童生徒等を見守る体制はできているか。	
<b>事件・事故災害発生時の危機管理のチェックポイント</b>	
・危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）が作成され、訓練等を行い、見直しがなされているか。	
・全教職員が応急手当の手順や技術を習得できるように配慮したり、研修を行ったりしているか。	
・校内での救急・緊急連絡体制はできているか。	
・校外での学習等における救急・緊急連絡体制はできているか。	
・火災、地震、津波、火山活動、風水（雪）害等の発生に備えた被害防止対策は適切に立てられているか。	
・火災、地震、津波、火山活動、風水（雪）害等に備えて災害発生時の安全措置や教職員の役割が明確にされているか。	

## IV 組織活動の評価

### 1 組織活動の評価の意義

学校安全の活動を効果的に進めていくためには、教職員の役割分担をしっかりと行い、全職員が共通理解し組織的に取り組むことで児童生徒等の安全が確保できるが、役割等が不十分な状態になっていることもある。

また、学校と家庭、地域の関係機関・団体等及び学校相互の連携や情報交換を密にし、地域ぐるみで安全で安心な学校生活が送れるように、常に連携が取れているか確認する必要がある。

### 2 組織活動の主な評価項目

教職員の役割分担の明確化や家庭、PTA、地域関係機関との連携の仕方について、具体的に示しておく必要がある。

#### 評価票の例

【組織活動の目標】	チェック
<b>教職員の役割と校内体制のチェックポイント</b>	
・「災害安全」「交通安全」「生活安全」の面から全教職員それぞれの役割を分担しているか。	
・校務分掌、校内規定等において、教職員の役割分担と責任が明確になっているか。	
・学校安全に関する実施計画の策定、安全活動の企画、調整、評価について、チーフとなる教職員を校務分掌の中で明確にしているか。	
・緊急かつ特別な危機発生時には、管理職のリーダーシップの下、学校全体で対応に当たる危機管理体制を予め構築しているか。	
・管理職が不在の場合のリーダーを予め決めているか。	
・緊急時における必要な方策の具体的内容と実施体制をマニュアルとして定め周知・徹底しているか。	
・報道対応について、対応者や対応方法、内容について予め校内体制に位置付けているか。	
・教職員の共通理解を図るため、あらゆる場と機会を活用して、意図的に話し合いを行っているか。	
・知識・技能を向上させるために、校内研修を行っているか。	
<b>家庭、PTA 及び地域や関係機関・団体との連携のチェックポイント</b>	
・家庭訪問や各種会合（授業参観、保護者懇談会等）での情報交換・意見交換をしているか。	
・学校だより、学年・学級だより等で学校安全について周知しているか。	
・不審者等の情報を素早くメールの配信等で情報提供をしているか。	
・家庭において、安全に関して望ましい習慣を身に付けさせたり、情緒の安定を図ったりすることが安全・安心を確保する上で重要であることを伝えているか。	
・交通安全期間等での指導等を PTA と連携して行っているか。	
・通学路や遊び場などでの巡回指導を PTA と連携して行っているか。	
・災害発生時の連絡体制や引き渡しについて事前に了解しているか。	
・警察等と連携して交通安全指導（交通安全教室の実施）等を行っているか。	
・警察等と連携して防犯指導（防犯教室の実施）等を行っているか。	
・避難訓練時に消防署との連携等をしているか。	
・地域学校安全委員会を設置しているか。	



被災後の校舎  
(山元町立山下第二小学校)